



国重要文化的景観選定記念
特集
黒島の
文化的景観

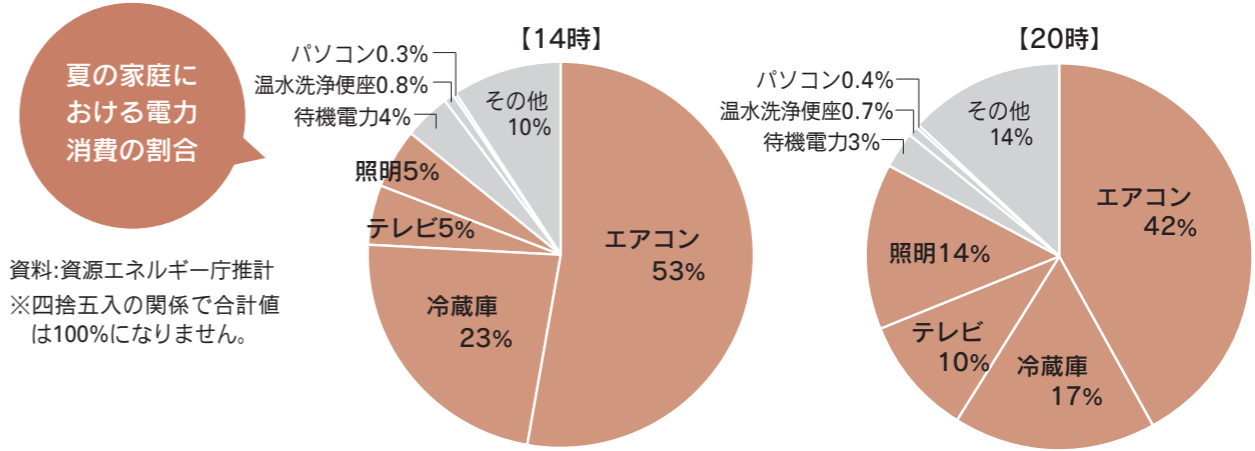
佐世保市黒島町は、住民の約8割をカトリック教徒が占める信仰の島です。
 江戸時代、迫害から逃れた潜伏キリシタンたちは新天地を求め黒島へ入植、今日まで命を引き継いできました。
 島に残る古い建物、入植者たちの知恵と労力によって開かれた緑豊かな集落。今、わたしたちが見る黒島の風景は、島の自然と人々の歩んだ歴史が一体となって生み出されたものです。
 こうした黒島の伝統的な風景は、潜伏キリシタンの歴史を今に伝える文化財でもあり、全国的に珍しい「文化的景観」として近年、注目されています。
 今回の特集は、「黒島の文化的景観」。黒島の風景を形づくった歴史や、この島の伝統を生かし、次世代へ引き継ぐための取り組みについて紹介します。

写真・黒島天主堂

エアコン、冷蔵庫、テレビ、照明

夏の節電対策は4つの家電を重点的に！

夏場の家庭における電力消費のうち、80%以上の割合を占めているのが「エアコン」「冷蔵庫」「テレビ」「照明」の4種類の家電です。節電に取り組むときには、まずはこれらの使い方を重点的に見直しましょう！



資料：資源エネルギー庁推計
 ※四捨五入の関係で合計値は100%になりません。

家庭でできる節電対策メニュー(重点4品目)		削減率
エ ア コ ン	①できるだけエアコンを消し、扇風機を使いましょう。	50%
	②設定は28度に。温度を2度上げると10%削減できます。	10%
	③「すだれ」や「よしず」で日差しを和らげましょう。	10%
	④2週間に1度はフィルターを掃除しましょう。	4%
冷 蔵 庫	⑤冷蔵庫の設定を「強」から「中」に変え、扉を開ける時間を減らし、食品を詰め込まないようにしましょう。	2%
テ レ ビ	⑥省エネモードにするとともに、画面の輝度を下げ、必要な時以外は消しましょう。	2%
照 明	⑦日中は照明を消し、夜間も照明をできるだけ減らしましょう。	5%
家庭でできる節電対策メニュー(重点4品目以外)		削減率
待 機 電 力	⑧リモコンではなく、本体の主電源を切りましょう。長時間使わない機器は、コンセントからプラグを抜きましょう。	2%
温 水 洗 浄 便 座	⑨便座保温・温水のオフ機能、タイマー機能を利用しましょう。機能が付いていなければ、できるだけプラグを抜いておきましょう。	1%未満

※エアコンの控え過ぎによる熱中症などに気を付けて、無理のない範囲で節電しましょう。
 資料：資源エネルギー庁「節電アクション」、環境省「家庭でできる節電アクション」。 環境政策課 ☎31-6520

させほ市政だより

- テレビ 毎週土曜 NBC・NIB→9時25分、KTN・NCC→11時40分
- ラジオ NBC 日曜 9時25分、FM長崎 火曜 9時5分 FMさせほ 火曜10時30分・日曜 9時30分
- 新 聞 長崎新聞 毎月第2・4火曜
- ホームページ <http://www.city.sasebo.nagasaki.jp/>



携帯サイトはこちら！

人の動き 7月1日現在

- 総人口 259,894人(-181人)
 男性121,762人(-124人)、女性138,132人(-57人)
 ※6月中の動き
 転入622人、転出810人、出生211人、死亡204人
- 世帯数 106,817世帯(-127世帯)

黒島の歴史的、文化的な景観を構成するもの

宗教施設、石造物など

1黒島神社。開墾を免れた島唯一の原生林が残る2カトリック共同墓地3本村地区のかっぱ塚。塚の塔は室町時代に関西地方で制作されたことが判明しており、倭寇（海賊）が持ち込んだと考えられる

集落景観

4蔵地区の集落。潜伏キリシタンの開拓地で家々が散在している

近代の遺構

5大正時代の発電所跡。佐世保港を守る砲台施設の一部だった。黒島には旧海軍ゆかりの史跡も残る

伝統的な生活空間など

6防風林で囲まれた民家7石垣に根を張るアコウの木8畑の防風林。背の低いマサキの木が使われる9根谷地区の大アコウ10黒島の伝統的な民家。平屋で背が低いのが特徴



黒島の歴史と文化的景観

文化的景観とは、「その土地の歴史や生活、風土が一体となって生まれた、文化財としての景観」のこと。さまざまな要素から成る文化的景観を、黒島の歴史をひもときながら巡ります。

黒島は208の島からなる九十九島で最大の島です。旧黒島村が本市と合併したのは昭和29年のこと。本土とは本浦港からフェリーで結ばれています。

フェリーに乗船して約50分、黒島の玄関口、黒島港に到着。船を降り、黒島で最古の集落、本村地区へと向かいます。

江戸時代の黒島

黒島が歴史に初めて登場するのは文永8（1271）年、松浦党の青方氏の古文書「青方文書」に峯氏（後の平戸松浦氏）が黒島の地頭職として公認されたことが記されています。時は流れて江戸時代、黒島は平戸藩の家臣、西氏の所領でした。当時は西氏の一族と家来がわずかに本村周辺に住むだけで、藩の軍馬を放牧する「黒島牧」が置かれていました。藩政時代の中心だった本村地区には、黒島でただ一つの寺「興禅寺」や役所跡が残り、往時の名残を伝えています。江戸末期、平戸藩は農地を増やすべく、離島へ農民を次々と入植させます。天明5（1785）年には、黒島に西彼杵半島の外海から百六戸の移住者を受け入

落道。樹木が生い茂る庭園迷路のような道をしばらく歩くと、それまで防風林で見えなかった家々に通じていることが初めて分かります。畑は強烈な海風を避けるため、低木で囲まれています。こうした黒島らしい集落景観は、島の開拓の歴史と深く関わっています。

潜伏キリシタンたちは、先住者がいない島の南岸に上陸。荒れた斜面地に石垣を積んで家を確保すると、今度は丘の上へと開墾を進めました。この過程を示すように、集落の防風林は海に近いほど樹齢が古く、大きく成長しています。入植者たちは成長が早い「アコウ」を防風林にし、サザンカからは油を取るなど、木の特色を巧みに生活に利用しました。

明治時代までの黒島

数回に渡る入植で、島を取り巻くようにキリシタン集落が生まれました。人口は急激に増え、本村に「興禅寺」が創建されましたが、人々は表向きは寺の檀家として、ひそかに信仰を維持しました。興禅寺では本尊付近からマリア観音が発見されています。また、島には彼らの信仰を「知りながら」あえて触れなかったことなどが伝えられています。

禁教令の時代、黒島でも絵踏みが行われましたが、殉教者が出るような迫害は起こらなかったといえます。争いが少なかった歴史は、この島が持つ穏やかな雰囲気や人々の気質に結び付いているのかも知れません。

れたとされています。黒島牧も開拓を優先するため、享和3（1803）年に廃止され、鹿町の褥崎に移転しました。

潜伏キリシタンの入植

そのころ、外海を治めていた大村藩では、入植者を求めていた五島へ多くの人を移住させていました。このような移住者のほとんどは、ひそかにキリスト教を信仰する人々、いわゆる「潜伏キリシタン」でした。

大村藩のキリシタン弾圧は厳しく、また農民の生活は困窮していたと言われています。こうした苦難から逃れるため、故郷を離れた人々の一部が黒島に渡り、黒島牧の跡地などへ入植しました。黒島カトリック教徒のルーツ、外海地方からの移住はこうして始まりました。

本村地区から隣の蔵地区へ向かうと、集落の様相は一変します。ここは古くからのカトリック集落で、海のそばに家々が散在し、なだらかな丘の上に向かって畑が広がっています。石垣の間を縫うように斜面を走る集

キリシタンからカトリックへ

幕末期の元治元（1864）年、長崎に外国人のための教会、大浦天主堂が出来ると、潜伏キリシタンの転機となる「信徒発見」が起こります。各地の潜伏キリシタンたちはプチジャン神父を訪ね信仰を告白、宣教師に出会えた喜びに涙しました。この知らせは黒島にも届き、信徒たちは大浦を訪ね、六百人の信徒が島にいることを告げました。

しかしこの時、黒島で行われていた洗礼（入信の儀式）に明らか間違いがあり、無効だったことが判明します。驚いた信徒たちは神父の指導を受け、懸命に教理を学んで洗礼を受け直しました。黒島の信徒はすべて、正式なカトリック教徒として復活を遂げました。

この「信仰復活」で立役者となったのが、出口大吉です。水方（洗礼を施す役）だった出口は、禁教令が続く中で黒島に神父を招きミサを行うなど、信徒のために奔走しました。現在、出口家の跡地は「信仰復活の地」として大切にされています。



信仰復活の地記念碑

黒島全島域が国の重要文化的景観に 景観保存を通じて地域を元気に

普段、島の人々が何気なく見ている風景にも、先人たちから受け継がれた歴史や生活が刻まれています。こうした価値を再発見するため、本市では平成19年から約3年にわたり、黒島の景観に関する学術調査を実施しました。

その成果が実り、黒島独自の景観が全国的にも貴重な景観として国の文化審議会に高く評価され、本年7月に「佐世保市黒島の文化的景観」として、「国重要文化的景観」に選定されました。

文化的景観の管理活用計画を策定します

文化的景観とは、島の人々が生活する場そのもの。地域の生活が守られることで初めて景観を維持することができます。本市では、地域の皆さんと協力しながら、黒島の貴重な財産である文化的景観を守り、伝える取り組みを進めるための管理活用計画を策定します。

そして、景観保存など地域のために活動する人への支援を通じて、黒島の活性化につなげることがこの計画の目的でもあります。



昭和30年ころの黒島。人口は2000人を超え、一面が麦畑に覆われていた
(お告げのマリア修道会編「黒島修道院100年のあゆみ」より)

世界遺産登録への動き

黒島の文化的景観は、黒島天主堂とともに、長崎県が世界遺産登録を目指す「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の構成資産候補としても検討されることとなります。みんなが訪れたい、帰りたくなる島を目指して、黒島の新しい魅力をつくっていきましょう。皆さんのご協力をお願いします。

豊かな自然、昔ながらの風情を味わって 黒島マップ



- ①黒島神社②興禅寺③黒島天主堂④カトリック共同墓地
- ⑤佐世保市黒島支所⑥蔵地区の集落景観⑦串ノ浜岩脈⑧信仰復活の地⑨根谷の大サザンカ⑩大アコウ

佐世保市黒島町のデータ

面積 約4.67km²
人口 498人(本年7月1日現在)
世帯数 294世帯
アクセス 相浦棧橋からフェリーで約50分

※現在、島内には公共交通機関がありません。旅行には地元ガイドが案内するツアーがおすすめです。
※ツアー申し込みやフェリーの時刻、料金については本紙12ページをご覧ください。

よかところ黒島 暮らしのスナップ



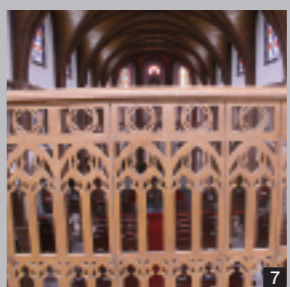
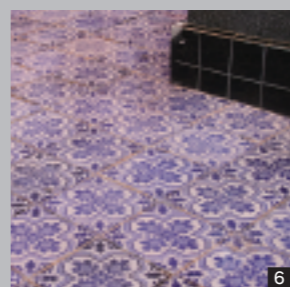
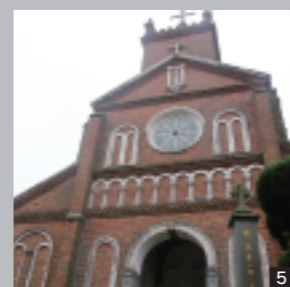
黒島では、有志による特産品づくりを進めています。蔵地区では耕作放棄地を活用してオリーブを栽培。赤土を生かした根菜類の栽培も盛んです。



商店では井戸端会議が開かれていました。島ではみんなが顔見知り。人と人のつながりの強さはこの島の財産です。



昔の造りを生かして改装されたモダンな建物。島の景観にも溶け込んでいます。中は、島にUターンした夫婦が経営する美容室になっています。



国指定重要文化財

黒島天主堂

(明治35年献堂)

①マルマン神父が作った説教壇②聖体ランプ③内部は三廊構造でリブ・ヴォールト天井(こうもり天井)。荘厳な中にも温もりがある④ステンドグラスは当時フランスから輸入され、今も一部が現存する⑤正面から見た天主堂。半円アーチを持つロマネスク様式⑥祭壇に使われた有田焼のタイル⑦旧教会堂の聖体拝領台が手すりに転用される⑧手描きされた柱の木目⑨レンガの一部は島内で造り、礎に黒島の御影石が使われる



マルマン神父の墓所
(カトリック共同墓地内)

明治6(1873)年に禁教令が撤廃されると、信徒たちは晴れて信仰を公にしました。当時は仮の聖堂しかなかったため、平戸に赴任していたペルー神父が来訪、教会堂の建設を計画しました。
明治13(1880)年には木造和洋折衷様式の旧教会堂が完成しましたが、その後、信徒数の増加により手狭となり、明治30(1897)年に新たな教会堂を建設する命を受けたフランス人、マルマン神父が黒島へ赴任します。建築に造詣が深かった神父は、前任地の五島でも教会を設計していました。明治33(1900)年にレンガ造りの教会堂建設に着手。島の信徒たち全員が献金や労働奉仕で協力しました。途中、資金調達のためマルマン神父が一時帰国しましたが、再び戻り、明治35(1902)年に献堂されました。
マルマン神父は大正元(1912)年に亡くなるまで、黒島天主堂の司祭を務めました。

天主堂の完成

明治6(1873)年に禁教令が撤廃されると、信徒たちは晴れて信仰を公にしました。当時は仮の聖堂しかなかったため、平戸に赴任していたペルー神父が来訪、教会堂の建設を計画しました。

明治13(1880)年には木造和洋折衷様式の旧教会堂が完成しましたが、その後、信徒数の増加により手狭となり、明治30(1897)年に新たな教会堂を建設する命を受けたフランス人、マルマン神父が黒島へ赴任します。建築に造詣が深かった神父は、前任地の五島でも教会を設計していました。明治33(1900)年にレンガ造りの教会堂建設に着手。島の信徒たち全員が献金や労働奉仕で協力しました。途中、資金調達のためマルマン神父が一時帰国しましたが、再び戻り、明治35(1902)年に献堂されました。

【参考文献】佐世保市文化財調査報告第5集「佐世保市黒島の文化的景観保存調査報告書」(佐世保市教育委員会)

⑩文化的景観に関すること⇒社会教育課 ☎24-1111 その他記事に関すること⇒秘書課 ☎24-1111